第52号

[財]日本太鼓連盟
NIPPON TAIKO FOUNDATION

会報

発行・編集　2010年10月
〒107－0052　東京都港区赤坂1―2―2　日本財団ビル５階
財団法人日本太鼓連盟　理事長　塩見　和子
Tel.03－6229－5577　Fax.03－6229－5580
URL:http://www.nippon-taiko.or.jp　Email:info@nippon-taiko.or.jp

第14回日本太鼓全国フェスティバル
～宮城県仙台市で開催！～

（助六太鼓保存会・東京）

第14回日本太鼓全国フェスティバルを、７月18日(日)、宮城県仙台市・イズミティ21において、1,000人の観客を前に盛大に開催いたしました。

このフェスティバルは日本財団の助成事業として行われ、当財団主催、宮城県支部が主管となり、文化庁のほか、宮城県、仙台市等地元の後援をいただき行われました。

当日は天候にも恵まれ、開場の１時間以上も前からお客様が列を作られるなど、全国フェスティバルに対する期待が伺えました。公演は、主催者を代表して当財団の塩見和子理事長の挨拶、稲葉信義仙台市副市長のご祝辞と続き、主管団体を代表して宮城県支部の久保泰宏支部長の挨拶で幕を開けました。続いて全国トップレベルの９チームが渾身の演奏を披露しました。

以下出演団体をご紹介いたします。

（御陣乗太鼓保存会・石川）

１．宮城県合同チーム（宮城）…宮城県支部加盟団体の会員から選ばれた53名の皆さんが一つとなり、「鼓音」を演奏し、その迫力に会場から大きな拍手が贈られました。楽天の球場での合同演奏の経験を活かした見事な演奏でした。

２．助六太鼓保存会（東京）…東京を拠点に活動する助六太鼓保存会は、江戸の粋を感じさせる３曲を披露しました。いずれも、助六太鼓の代表曲で、仙台の皆さんも一時、江戸の雰囲気に浸っているようでした。

３．豊里学園和太鼓鼓粋（大阪）…大阪市にある知的障害者の児童福祉施設の利用者と職員の混合チームで、当財団主催の障害者大会の参加常連チームです。障害を感じない迫力ある太鼓の響きにお客様より心が震えたという賞賛が寄せられました。

４．蘭導（秋田）…流派や伝統にこだわらない様々な打法や編成をつくり、音楽性の高い「観る太鼓」を目指す秋田県を代表するチームです。安定感のある地打ちに、２人の女性が織り成す力強い演奏に観客は手拍子で応じていました。

５．御諏訪太鼓保存会（長野）…日本太鼓が今日の黄金時代を迎えられた礎となる日本を代表するチームの一つです。ＮＨＫの大河ドラマでも演奏した 諏訪雷を披露して頂き、戦国の世を再現して下さいました。

６．橘太鼓「響座」ジュニア（宮崎）…今年３月に行われた日本太鼓ジュニアコンクール優勝チームが優勝時の曲を披露しました。毎日練習を積み重ねた息の合った見事な演奏に、会場から感嘆の声と大きな拍手があがりました。

７．銚子はね太鼓保存会（千葉）…銚子市に伝わる伝統太鼓のチームです。客席より演奏しながら賑やかに登場し、舞台で跳んだりはねたりしながらの演奏は珍しい上に迫力満点で、仙台のお客様も大喜びでした。

８．御陣乗太鼓保存会（石川）…その昔、上杉勢が海から攻め込んだ際に、おどろおどろしい面を被り太鼓を演奏して敵を追い払ったと言われる伝説を今も伝える日本を代表する伝統太鼓チームです。迫力のある力強い太鼓を披露しました。

９．豊の国ゆふいん源流太鼓（大分）…最後の舞台を飾ったのは、2007年に由布市の無形文化財に指定されたゆふいん源流太鼓です。速さの極限を追求した締太鼓の演奏「源響」と大太鼓を中心とした「荒城の月」を披露しました。

第15回大会は、長野県上田市にて開催！
次回第15回日本太鼓全国フェスティバルは、来年2011年10月２日（日）、長野県上田市「上田市民会館」にて開催いたします。

（フィナーレ）

＊宮城県支部の久保支部長より、今フェスティバルについてご寄稿頂きました。

第14回日本太鼓全国フェスティバルを終えて　　宮城県支部支部長　久保　泰宏

宮城県に太鼓連絡協議会を立ち上げて10周年を迎えたのが平成19年…
その節目の年から“全国規模の日本太鼓のイベントを我が宮城県で開催したい”と準備を進め実現したのが「第14回日本太鼓全国フェスティバル」でした。

季節柄、梅雨時でしたので、天気も心配されましたが、当日はフェスティバルを待っていたかのように、梅雨明け宣言が出され、素晴らしい天気のもとで開催することができました。今回は東北太鼓連絡協議会の格段のご協力をいただき、私を始め宮城県支部一同、関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

このフェスティバルを成功させようと、まずは小学校５年生から50代まで53名による合同曲の練習がスタートしたのは、春まだ浅い３月でした。県連及び開催地チームの代表者会議は、昨年から行ってきましたが、合同曲の練習が順調に進んでいるのとは裏腹に、心配や不安なことが次々と出てきて、会議や打ち合わせに追われ、一番大切なチケット販売が遅れたり、マスコミ対策が十分にできなかった（お金を掛けてでももっと宣伝すべきだった…）ことなど、本番の日まで不安がいっぱいでした。そんな慌しい中で迎えた当日でしたが、会場は1,000名を超える人で、フィナーレまで誰一人帰ること無く、又アンコールの声も出るほど会場内は熱気と興奮に包まれました。会場が明るくなって、涙ぐんでいるご年配の人たちを目の前にしたとき「やって、いがったなぁ～（良かったなぁ）」…　終わりよければすべて良し…。アンコールの声が出された時は、終了予定時間の20分前でしたので、私個人としてはやってあげたかったのと、もうひとつ心残りは、障害者チーム大阪の豊里学園和太鼓「鼓粋」の皆さんに出演していただいたのに、会場に障害を持った人達を招待できなかったことです。県連の負担で招待席を設けて、この素晴らしい日本太鼓に触れさせてあげたかったとつくづく思いました。

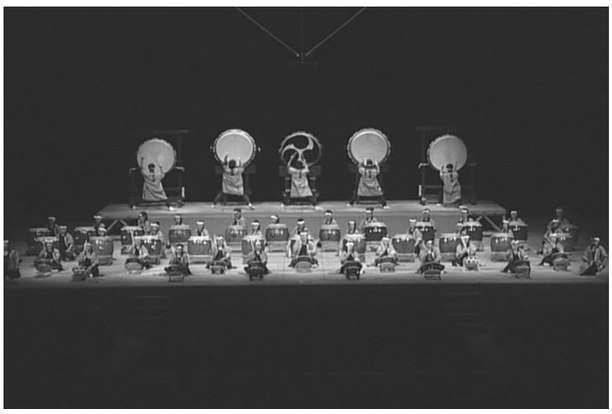
今回のフェスティバルは、無事に盛会の内に終了できました。観客の皆様からも、全国の太鼓を肌で感じることが出来たと、感激と感動の声が数多く寄せられました。宮城県合同チーム曲「鼓音」の演奏においても、高評価を頂くと同時に、演奏したメンバーも苦しかった練習を通して一人一人が太鼓の技を磨き達成感を味わうことができました。このような機会を作っていただいた財団法人日本太鼓連盟の皆様には、改めて心より御礼申し上げます。

“花達が天からの雨を待つように、自然からの光を待つように、大地からのぬくもりを求めるように、花の実が小鳥のついばみを待つように、衆生に甘露を施すように、人は人を信じたい”（丸山寿美・著より）

ありがとうございました。

（繋ぎ太鼓で演奏する久保支部長）

＊宮城県合同チームの演奏者として参加された神山正行氏にご寄稿いただきました。



（宮城県合同チーム）

宮城県支部　三陸連事務長　神山正行

「うぅわぁーつ、 間に合わねーべやぁ！！！」。選抜メンバーによる第１回合同練習時の私の正直な感想でした。県連の統一曲「鼓音」を期間半年弱で「第14回日本太鼓全国フェスティバル」で発表出来るレベルにする。

県連副会長今野氏以下、私を含む数名のプロジェクトチームに課せられた使命は、やはり相当困難なものだったと改めて自覚しました。従来の「鼓音」では演奏時間が短く“尺”が足りない為、新しいリズムを追加。…追加部分の難易度が高すぎたかもしれない…テンポが速いフレーズを、打ててはいるが抑揚が無く平坦、自信なさげな伏し目がちで、バチも全然上がらず総じて「覇気」がない。初回の練習後はメンバー及びスタッフのほぼ全員が「全国太鼓フェスティバルで披露しなければいけない」という事実をより重く感じるようになったと思います。

その後予定していた練習回数を増やし回数を重ねるにつれ、指導担当の南部氏の「“細部”より“勢い”」の方針が功を奏したのか、それとも各メンバーとの合同練習に慣れて無く「猫をかぶっていた」だけだったのか53名の演奏に一体感が生まれ始め、大所帯相応の迫力と力強さも出てくるようになりました。しかし元々アンサンブルが難しい曲で、ちょっと気を抜くと「すべる（ハシリながら縦がズレていく）」可能性が高いし、大所帯ゆえ「立ち上がる」「座る」等の所作を合わせるのが難しい等々、不安要素は多く、冒頭の「間に合わねーべや」が頭から消え去ったのは、本番の演奏が始まってからでした。

フェスティバル前日からの入念なリハーサル及びゲネプロで、メインアクト方々の百戦錬磨な演奏を目のあたりにし、諦念で霞んだ目を拭ってくれたのは本番演奏冒頭の仲間の力強い大太鼓の音でした。気合充分の５台の大太鼓の揃い打ち。

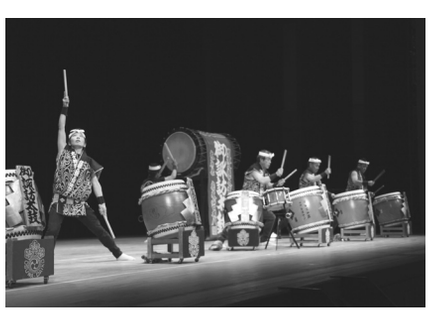
「いけるっ！」と確信し肌が粟立ちました。

その後は落ち着いて演奏でき、大分荒いながらも無事破綻無く完奏出来ました。

全国フェスティバルのオープニングに相応しい演奏だったかどうかは観客の皆様の判断にお任せ致しますが、貴重な機会を頂き、多くの仲間と共に未熟ながら充実した演奏が出来たことを（財）日本太鼓連盟並びに宮城県太鼓連絡協議会の方々に深く感謝致します。ありがとうございました。

（豊里学園和太鼓鼓粋・大阪）

（蘭導・秋田）



（御諏訪太鼓保存会・長野）

（橘太鼓「響座」ジュニア・宮崎）

（銚子はね太鼓保存会・千葉）

（豊の国ゆふいん源流太鼓・大分）

南アフリカ、ボツワナ、ポルトガル日本太鼓公演

（プレトリアの国立劇場前・南アフリカ）

８月31日から９月14日まで「橘太鼓『響座』」（宮崎）を南アフリカ・ボツワナ・ポルトガルに派遣いたしました。これは、日本と南アフリカの公的交流100周年、日本とポルトガルの修好150周年を祝う事業への派遣要請が各国大使館からあり、国際交流基金の支援も得て実現したものです。その後、南アフリカの隣国であるボツワナからも要請がありました。

その結果、南アフリカで２回、ボツワナで２回、ポルトガルで４回計８回の公演を行いました。南アフリカとボツワナにおいては、日本文化に全く触れる機会のない市民に日本太鼓を紹介することができ、ポルトガルにおいては２年前に実施した公演の成果が現れ、たくさんのお客様が集まり大盛況の内に終えることができました。

＊各国大使館よりご寄稿いただきましたが、紙面の都合で、この号ではボツワナから頂いた感想文を掲載させていただき、南アフリカとポルトガルは次号でご紹介致します。

在ボツワナ日本大使館

三等書記官　　北川　典（ふみ）

本年９月５日～８日、日本太鼓連盟及び橘太鼓「響座」の皆様にボツワナの首都・ハボロネにお越しいただき、２日間に亘り当地で公演していただきました。ボツワナで和太鼓公演というのは今回が初めての試みでしたが、卓越した技術と豊富な海外経験をお持ちの皆様に演奏していただき、大変貴重な機会となりました。

ボツワナという国の名前を聞いてすぐに場所が思い浮かぶ日本人はまだまだ少ないかもしれませんが、同様にボツワナの人々も普段日本文化に触れる機会がなかなかないため、日本のことをあまり良く知りません。2008年に当地に開館して以来、在ボツワナ日本大使館は日本の伝統文化の普及及び文化を通じた両国相互理解の促進に努めてまいりましたが、今回の和太鼓公演はまさにそのような日・ボツワナ間の文化交流を深めていく上で大きな一歩となったことを確信しております。

国際交流基金、日本財団、太鼓連盟のご協力の下、６日に国営放送のボツワナテレビ講堂、７日に当地最大の総合大学であるボツワナ大学にてそれぞれ公演を行っていただきましたが、両日とも公演を観覧した政府要人、外交団、メディア及び一般市民の方々から大変な好評をいただきました。特に６日の公演の模様は当地の国営テレビによりノーカット・約２時間の特別番組として放映され、その場にて観覧できなかった方々や地方在住者にも広く視聴されました。カーマ大統領も鑑賞されたと聞いております。また、ボツワナ大学の公演では太鼓のリズムに乗って自然に手拍子や踊りが始まり、満員の会場は大興奮に包まれました。響座の皆様の磨き抜かれた技術と熱いパフォーマンスは、言葉や文化の垣根を越えてボツワナ人の心に届いたのだと思います。今や、多くのボツワナ国民が「Taiko」という日本語を知っています。

太鼓は、日本とアフリカ共通の文化です。ボツワナの太鼓は伝統舞踊の拍子をとる際などに使い、手で叩く小ぶりの太鼓が主流ですので、今回の公演で初めてバチで叩く巨大な和太鼓を見、その音の大きさを肌で感じた観客は、目を丸くして音色に聞き入っていました。元々音楽が好きでリズム感のある人々ですので、聞いたとたん和太鼓が大好きになったようで、会場の皆さんが終始笑顔であったことが印象的でした。また、塩見和子理事長のわかりやすくかつ観客を引きつけるご説明のおかげで、和太鼓が持つ意味や歴史について来場者により良く理解してもらえ、ひいては日本の伝統文化そのものにもさらに興味をもってもらえたのではないかと思います。

日本大使館は、今後も、皆様に蒔いていただいた「日・ボツワナ相互文化交流の種」を大切に育ててまいりたいと思います。太鼓の演奏を通して日本の伝統文化を世界に広め、日本と海外の架け橋となる役割を担う皆様の、今後益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

＊「橘太鼓『響座』」の方よりご寄稿いただきました。

メンバー　吉野　真吾

今回、私たちは、（財）日本太鼓連盟からの派遣により、南アフリカ、ボツワナ、ポルトガルの３カ国で、ミニ公演を含め全９公演を行いました。

暑さの続く日本を飛び立ち、乗り継ぎを含め約30時間、ようやく南アフリカに到着。空港からはバスに乗り一路ホテルへ。移動中、鉄格子で囲まれている家々を見て、南アフリカの治安の悪さを自分の目

で実感させられました。

２日目についに初公演となる野外でのミニ公演。日本を代表しているというプレッシャー、南アフリカの人々に和太鼓を受け入れてもらえるだろうかという不安の中、演奏が始まりました。高地と、時差ボケの影響からか、体が思うように動かず、歯がゆさを感じながらもなんとか無事に演奏を終了。すると、演奏終了と共に大きな歓声が沸き起こりました。この歓声を聞き、不安が一気に吹き飛び「受け入れてくれた！」と感じました。南アフリカでは、ミニ公演を含め、キャピタル・アーツ・フェスティバルでの２回公演の全３回、公演を行いました。この公演では、高円寺阿波踊りの「菊水連」の方々との共演でした。阿波踊りを初めて間近で見たのが、南アフリカだったのが不思議な感じでした。

次はボツワナ共和国へ。ボツワナテレビ、ボツワナ大学で公演を行い、両公演とも大盛況で幕を閉じ、在ボツワナ共和国日本大使館の松山大使からも「日本のＰＲに大いに貢献してくれた。」と嬉しいお言葉を頂きました。

３カ国目はポルトガル。ポルトガルでの公演は今回で２度目。大使館の職員、ガイドの方も前回と同じだったので、久しぶりの再会に感動しました。ポルトガルでは合計４公演行いました。最初のオリエント博物館講堂での公演は、チケットがソールドアウトしたという事を聞いて、いつも以上に気合いが入りました。グルベンキアンでの野外公演は、会場を埋め尽くした観客の入りで、演奏終了と同時に満場総立ちとなり、それを見た私は逆に感動してしまいました。最終日は２公演ということで、さらに気合いを入れ、演奏に挑みました。サントアマロ海岸での野外公演では、潮風を感じながら気持ちよく演奏することが出来ました。そして今回の海外公演の集大成ともいえる、万博公演野外特設会場での公演は、雲ひとつない焼けるような日差しの中での演奏でした。最後の曲が終わり観客の割れんばかりの拍手が、今回の公演の成功を物語っているようでした。

今回、私たちにこの様な素晴らしい機会を与えていただき、本当に感謝しています。約２週間という期間でしたが、太鼓打ちとして一歩成長出来たように思います。今回の公演で得た経験を糧に、これからも精進して行きたいと思います。ありがとうございました。

（ボツワナテレビでの公演）

（サントアマロ海岸での演奏・ポルトガル）

メンバー　山床　海（ジュニア）

今回、初めての海外公演に行くことになりました。

最初の南アフリカでは、２日間にわたって、キャピタル・アーツ・フェスティバルに参加しました。外国の方はどんな反応をするだろうか？と、公演の始まる直前まで緊張と不安と色々な思いでいっぱいでした。無我夢中で演奏しました。そして、演奏を終了した後の歓声は忘れられません。

次に、ボツワナ共和国では、テレビ講堂、大学講堂で公演しました。正直、僕はボツワナという国を全く知らず、一体どんな所なんだろうと思いました。南アフリカからバスで５時間半かかって、ボツワナに着きました。実際、会場に行ってみると、公演後の歓声や拍手は、日本以上にすごく、体全体で喜んでくれて、逆に僕たちが元気をもらいました。

最後に行ったポルトガルでは、オリエント博物館や、３ヶ所の野外公演がありました。前の２ヶ国とは町の雰囲気、気候や景色が違いました。ポルトガルの最終日のころになると、日本を出発するときには２週間は長いなあと思ったのですが、あっという間に過ぎた気がします。また、日本の太鼓を伝える事ができた喜びと貴重な体験に感慨深いものがありました。これも、僕の海外公演を心配しながらも喜んで行かせてくれた父と母のおかげです。

公演にあたり段取り良くステージを進めていただいた太鼓連盟のスタッフの皆様。色々なお心遣いをして下さった各国大使館の皆様。そして、太鼓の演奏を観て下さった後にいつもアドバイスをして下さったり、食事の時など色々と僕たちに心を配って下さった塩見理事長に心から感謝申し上げます。

今回の海外公演は、僕の一生の思い出となりました。太鼓で繋がる世界の和、音楽に国境はないことを深く実感しました。これからも、多くの人に感動して頂けるような太鼓を打っていきたいと思います。

＜派遣メンバー＞

橘太鼓「響座」

岩切邦光（代表）、岩切響一、酒井優、増田峻典、宮原直樹、山床海、吉野真吾

(財)日本太鼓連盟

塩見和子（理事長）、中西由郎（常務理事）
大澤和彦（事務局長）、黒木奈都子（事務局）

東京・虎ノ門一丁目琴平町の夏祭り

８月６日(金)東京・虎ノ門一丁目琴平町会のお祭りが開催され､「邦楽アカデミー和太鼓大元組ジュニア」(東京)が演奏を行いました。

恒例となった夏祭りでの太鼓演奏に、道行く人々も足を止め､夏の暑さを一時忘れ見入っていました。

（邦楽アカデミー　和太鼓大元組ジュニア）

第23回水心会夏祭り

９月７日(火)、水心会が親睦を目的に開催している恒例の夏祭りが行われました。今回は、昨年に引き続き東京日本橋の三越本店屋上ビアーガーデンで行われました。水心会は、当財団が助成を受けている日本財団や日本モーターボート競走会などの関連団体から構成されています。今年は天気にも恵まれ、ビンゴ大会などのゲームで会場は大賑わいでした。また、今年も当財団に要請があり、太鼓２チームが出演しました。東京の「邦楽アカデミー和太鼓大元組」と共に、大元組に指導を受けている日本財団関連団体関係者で構成された「和太鼓水心会」が会場内ステージで演奏し、夏祭りを大いに盛り上げました。日ごろの練習の成果に参加者から盛大な拍手が贈られ、仕事を離れた仲間たちの勇姿に会場は大盛り上がりでした。都会のビルの屋上で、さわやかな風が吹き抜ける中、演奏者の方々も気持ちよく太鼓をたたいていました。

（邦楽アカデミー和太鼓大元組）

（和太鼓水心会）

「故 進藤 喜一郎 氏を送る会」

去る４月にご逝去された故進藤喜一郎氏(前山形県支部長・太鼓道場「風の会」代表)を送る会が８月に開催され、当財団より塩見理事長が出席いたしました。

太鼓道場「風の会」　代表　江口　信一郎

平成22年８月22日(日)の午後２時30分より、山形県酒田市にあるホテルリッチ＆ガーデン酒田において「故 進藤 喜一郎　氏」を送る会が行われました。

塩見理事長には発起人代表をお引き受け頂き、誠にありがとうございました。他にも生前より故人と縁の深かった鼓友より快い承諾を受け、発起人に名前を連ねていただきました。また様々な方から偲ぶお言葉を頂戴し、その言葉を綴った冊子を製作し、故人が書いた「夢の先へ」という言葉を印刷した扇子と併せて出席者に配布いたしました。

また、会で流すために製作したＤＶＤには、生い立ちから、太鼓への情熱、闘病についてなど故人の生き様を約40分にまとめ、出席者の方々が故人をそれぞれ偲ばれたかと存じます。最後には、故人の「ありがとう！」との肉声が会場に響き、和太鼓の響きと相まって、ちょっと照れくさそうにしながらも笑顔いっぱいの故人が思いだされ、150名を超える全国各地の鼓友、地元の太鼓団体並びに関係者と共に温かい雰囲気の中、故人を送ることができました。

ありがとうございました。

（故進藤喜一郎氏）

北海道くしろ蝦夷太鼓保存会「サントリー地域文化賞」を受賞

このたび、くしろ蝦夷太鼓保存会(代表：石田榮一氏)が、サントリー文化財団主催で地域文化に貢献した活動をたたえる「サントリー地域文化賞」に選ばれ、贈呈式が８月４日に東京都港区のホテルで行われました。

同チームは北海道の自然や人々の祈りをテーマとする太鼓演奏を40年以上続けておられます。今年２月のサントリーホールでのコンサートを始め、国内外での積極的な公演活動、地元の子供たちへの指導など次世代の育成にも力を入れる姿が高く評価されての受賞となりました。心よりお祝い申し上げます。今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

（贈呈式で記念撮影）

【くしろ蝦夷太鼓保存会とは】

1967年、釧路市の飲食店関係者が中心となり「北海道くしろ蝦夷太鼓保存会」を結成。北海の漁師、釧路湿原、アイヌの祈りなど、北海道ならではのテーマを取り入れた太鼓演奏を行っている。北海道で最も古いアマチュア太鼓団体であり、20以上のオリジナル曲をレパートリーとして持つ。

釧路だけでなく、他地域での公演も活発に行う。これまでに国立劇場へ２度出演し、札幌コンサートホール・キタラや東京のサントリーホールといったクラッシックのホールでの単独公演も実現した。さらに、海外公演もこれまで15回行っている。

地元の学校や聴力障害者団体にも積極的に指導を行い、後継者の育成も行う。蝦夷太鼓保存会のメンバーは消防署員を中心に現在約30名だが、学校などに誕生した支部を合わせると120名以上になる。

御陣乗太鼓保存会50周年記念祝賀会開催

御陣乗太鼓保存会が結成50年を迎え、記念祝賀会が開催され、当財団より塩見理事長が出席。

半世紀を迎えました！　御陣乗太鼓事務局長　北岡　周治

石川県無形文化財に指定されている御陣乗太鼓の保存会が、1960年(昭和35年)に結成されてから半世紀が経ちました。その50周年記念事業として、10月２日に奉告祭と新調した太鼓の清祓式を名舟町の奥津比咩神社において執り行ったあと、会場を変えて祝賀パーティが開かれました。祝賀パーティは、(財)日本太鼓連盟理事長塩見和子様、衆議院議員北村茂男様、石川県知事谷本正憲様、輪島市長梶文秋様を始めとして、お世話になった方々80数名をお招きして盛大に行われました。清祓式を済ませたばかりの太鼓の打ち初めを幕開きに、これまでに放送された映像などを肴にグラスを傾けながら、互いの思い出を語りあう貴重な一時となりました。また、これを機に編纂した記念誌と写真集を町内の各戸と関係各機関へ贈呈いたしました。

（池田副会長を囲んで）

【御陣乗太鼓とは】

天正５年(西暦1577年)越後の上杉謙信が、奥能登を平定するため現在の珠洲市三崎町に上陸し、名舟村へ押し寄せてきた。武器らしいものを持たない村人達は、鍬や鎌まで持ち出して上杉勢を迎撃する準備を進め、村の古老の指示に従い、樹の皮で仮面を作り、海藻を頭髪にし、太鼓を打ち鳴らしながら寝静まる上杉勢に夜襲をかけた。上杉勢は思いもよらぬ陣太鼓と奇怪きわまる怪物の夜襲に驚愕し、戦わずして退散したと伝えられている。

御陣乗太鼓の発祥の地である石川県輪島市名舟町は、現在、世帯数約70戸、人口約250人の小さな町の中で約20名の打ち手が活動している。石川県指定無形文化財、輪島市指定無形文化財に指定され、御陣乗太鼓を通して能登や輪島の魅力を積極的に広めている。演奏活動の収益は名舟町に還元され、御陣乗太鼓は名舟町全体のものとして認識されている。なお、長年同会の中心的存在であり2004年に「旭日双光章」を受章された池田庄作氏は、現在日本太鼓連盟の副会長を務められている。

事務局だより

第49回日本太鼓支部講習会（長野県安曇野市）
日　時：2010年12月４日・５日（土日）
主　催：(財)日本太鼓連盟長野県支部
会　場：安曇野市穂高会館（長野県安曇野市穂高5047　Tel. 0263-82-5970）
講　座　　総合指導　　古屋　邦夫氏（技術委員会委員長）
　　３級基本講座　安江　信寿氏（１級公認指導員）
　　４級基本講座　三浦　一浩氏（１級公認指導員）
　　５級基本講座　松枝　明美氏（１級公認指導員）

第50回日本太鼓支部講習会（東京都港区）
日　時：2011年２月12日・13日（土日）
主　催：(財)日本太鼓連盟東京都支部
会　場：日本財団ビル（東京都港区赤坂1-2-2　Tel. 03-6229-5577）
講　座：３・４・５級基本講座を予定

第40回日本太鼓全国講習会（大分県由布市）
日　時：2011年２月26日・27日（土日）
主　催：(財)日本太鼓連盟
会　場：湯布院スポーツセンター（大分県由布市湯布院町川西1200-1　Tel.0995-78-8000）
講　座：３・４・５級基本講座、専門講座３講座を予定

＊要領等の詳細は、決定次第随時財団ホームページに掲載いたします。
http://www.nippon-taiko.or.jp/

第７回日本太鼓シニアコンクールのお知らせ
日　時：2010年11月21日（日）　開演　14：00
　　＊日本太鼓ジュニアコンクール石川県大会に続き、シニアコンクールが行われます。
場　所：こまつ芸術劇場うらら（石川県小松市土居原町710番地）
主　催：(財)日本太鼓連盟、(社)石川県太鼓連盟、(財)石川県芸術文化協会、北國新聞社
主　管：(財)日本太鼓連盟石川県支部
連絡先：(財)日本太鼓連盟　〒107-0052東京都港区赤坂1-2-2 Tel. 03-6229-5577 Fax. 03-6229-5580

ジュニアコンクール予選・推薦の結果報告は11月末締切 !!
2011年3月20日（日）愛知県名古屋市のセンチュリーホールで第13回日本太鼓ジュニアコンクールが開催されます。海外からは、これまでのブラジルに加え新たに台湾からも参加することとなりました。
国内でも、各地において予選が行われておりますが、終了した支部は11月末日までに予選実施報告書・出演団体推薦書・出演申込書を提出して下さい。課題曲は全チームが確定後、年内に一斉配布致します。
なお、予選のない地域で出場を希望される団体は、財団事務局までご連絡下さい。(Tel. 03-6229-5577)

日本太鼓助成金交付事業の2011年度分を募集
2011年４月～2012年３月分の助成金交付事業募集の締め切りは、12月27日（月）です。
１事業あたりの助成金は20万円となっております。詳細は、財団事務局・黒木までお問い合わせ下さい。
(財)日本太鼓連盟　Tel. 03-6229-5577 Fax. 03-6229-5580　Email: info@nippon-taiko.or.jp